

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401848		
法人名	おおいし 有限会社		
事業所名	グループホーム おおいし		
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙1161番地2		
自己評価作成日	令和6年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナが5類になり少しづつ外出支援をと考えてます、あまり実施できていません。が、施設内での行事(入居者の誕生日会・リクエストメニュー・クリスマス会・豆まき等)は変わらず行い、入居者様の気分転換が出来るように支援させて頂きました。

・年に1回の秋祭りでは新型コロナウイルス感染症により、外部からの参加者などは入れずに、入居者様や利用者様と職員のみで開催。

・高台であり周りには自然が多く眺めも良いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周囲には田畑が広がり、静かな環境の下で入居者はゆっくりと過ごすことができる。天気の良い日にはホーム周辺を散歩し、入居者の気分転換を図っている。近くの農家の方からは旬の野菜(ジャガイモ・トウモロコシ・レタス等)の差し入れがあり、食卓に提供している。同法人の関連施設であるデイサービス事業所が近隣にあり、そこで開催される秋祭りに入居者も参加して地域住民と交流している。グラウンドに咲く桜の花見に行ったり、散髪の際に買い物に寄るなど可能な範囲で外出を支援している。早い時間に起床する方や、遅い時間に就寝する方など本人の希望に柔軟に対応し、最小限の職員体制の下でも現状に合わせた支援を提供できるよう工夫している点は評価できる。コロナ禍により外出制限が続いたことを受け、管理者は今後外出に力を入れていきたいとの意向があり、家族や地域とも協力を得ながら更なる入居者支援に期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「想」の理念を掲げ家族的で楽しくをモットーに支援を行っている。	職員や訪れる方に理念である「想(おもい)」が目につくように掲示されている。同じく年間目標も掲示されており、ホーム全体で取り組みを具現化すると共に、年度末には職員一人ひとりが実践状況を振り返りながら日々の業務に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になり、外部との交流は控えていましたが、コロナの状態に合わせて対応を行うようにしていますが、地域との繋がりができているかと言うと出来ていないと思う。但し、隣にあるデイサービスなどと一緒に秋祭りは実施。地域利用者様との交流はあり。	同法人の関連施設であるデイサービス事業所が近隣にあり、そこで開催される秋祭りに入居者も参加して交流している。昨年は地域の中学生が福祉体験学習に訪れた。今年度は職員不足傾向が続いていることもあり地域交流ができていない面が窺えるが、代表者が地域と関わる機会を多く持たれており、地域の様々な情報等は入手できているとのことである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進委員会では入居者様の状態報告など実施。 ・施設周りの農家さんとは顔なじみになり、何かあった場合はご協力をお願いしたり、採れたての野菜を頂いたりもしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を活かして地域の自治会長、民生委員の方にも参加して頂き、ホームの状況、認知症、介護保険等の実態を報告、説明等をし理解してもらえるように努めている。新型コロナワクチン接種状況なども報告したりしています。	運営推進会議には雲仙市地域振興課課長、自治会長、民生委員等が参加しており、身体拘束、事故・ヒヤリハット報告、職員異動、行事内容、介護報酬算定等、多岐にわたってホームの状況報告を行ない、参加者より質疑を受け運営に活かしている。議事の進行内容を分かりやすく口語形式の議事録を残されている。9月の運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を実施しており、職員も緊張感を持って訓練に臨むことができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進委員会開催時に報告実施。 ・月1回の職員会議時状況確認実施や毎日の申し送り時確認・報告するようにしている。	雲仙市地域振興課課長が運営推進会議に参加しており、ホームの現状を伝え意見を得ている。処遇改善加算など様々な制度上の確認事項を問い合わせるなど行政と日頃から情報交換し連携を図っている。入居者の金銭管理は市社会福祉協議会と連携し行っている。グループホーム連絡協議会が開催するリモート研修会等に職員が参加し研鑽に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・2ヵ月に1回委員会を開いている。 ・コロナ禍である為、施設研修またはリモート研修がある場合は参加し対応している。対面研修は、コロナの状況を見ながら対応出来る時は参加するようにしている。	センサーを使用する入居者がいるが、夜間帯のみの使用で、家族にも説明し転倒リスクの予防に繋げている。また、使用状況は運営推進会議にも報告している。定期的に身体拘束委員会や研修会を開催し、知識を深め、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。向精神薬を服用している入居者について、毎月の状態を主治医へ報告している。なぜ、服薬しているのかを職員間でも共有し「ドラッグロック」にならないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・年に1回は身体拘束委員会を開き検討している。研修はリモート研修がある場合は参加して対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約内容・重要事項説明書を見ながら確認契約内容に関する説明等行い、ご理解いただいた上で同意書へサインを頂くようしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・要望があった場合は柔軟に対応を行うようには心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進委員会開催時に報告実施。 ・月1回の職員会議時状況確認実施や毎日の申し送り時確認・報告するようにしている。	玄関に意見箱を設置している。15分ルールを設けているが面会を居室でも可能として柔軟に対応している。3か月毎に担当職員が家族へ手紙を送付し、入居者の状況などを伝え、また、ケアプラン担当からも家族へ確認事項を送付し意見や要望等を汲み取っている。	今回の外部評価調査で実施した家族アンケートの回収率が半数程度に留まった。次回の外部評価調査に向け、当アンケート調査がサービスの質の向上や入居者の安心を高めることを目的に実施している旨を家族へ伝えて協力を求め、より多くの家族意見を運営や質の向上に活かせるよう取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月の会議において意見交換を行い内容に応じては代表者へ報告し意見を頂き、会議にて報告するようにしている。・各施設リーダー会時にも報告・助言などを頂いたり、運営状況の報告を得たりもしています。管理者は定期的に職員会議を通じて職員と意見交換を行い、必要に応じて代表者及び関連施設の管理者等が参加するリーダー会議に諮り、運営に必要な環境整備に繋げるなど具体的に取り組んでいる。人事評価を通じて職員との個人面談を定期的実施し、メンタルケア・ハラスメント対策・有給休暇の取得等、職場環境の充実に取り組んでいる。	管理者は毎月15日に実施する職員会議や日常の業務を通じて職員意見を把握している。ケアプラン、モニタリング、各委員会等、各種会議の際は議事録を残し、参加できなかった職員へ回覧して内容を確認してもらうようにしている。職員アンケートやメンタルケアを年1回実施し、職場環境等の改善に活かしている。年3回職員各自が目標を立ててその都度評価し、職員意見を汲み取りながら人事評価に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの実施している。職員の人数が多い時はバタバタせず勤務出来ているが、職員の人数が少なくなるとバタついているので、職場環境がいい時もあれば少し大変な時もあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得は希望者のみ対応実施している(希望の有無は代表者に報告している)・令和3年度より基礎研修の義務付けにより資格を持っていないかへの研修へ必ず受けて頂くようにしています。また、必要な研修へ参加は出来る限り参加して頂き介護の質の向上に繋がるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で、対面研修などがほぼない為職員同士の交流はないが、管理者や施設長などは、リモートで会議行い情報交換を実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人の状態を見極め話しかけたりしながら安心できるよう心掛けている。ご家族に面会后、要望や不安等を言われなかったかの確認を行う。帰宅願望もなくスムーズに他の入居者にもとけこまれました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の要望を聞きプランに取り入れている。新たな要望に関してはその都度取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前・入居時サービスの確認を行うようにしています。入居後は入居者の行動、病状の観察を実施。状況に合わせて支援援助を行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様では、個人の洗濯物たたみを提供しています。ご本人様にあった暮らしが出来るように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回から3ヵ月に1回のお手紙を郵送してますが、面会時にも再度報告する事で密に関係をとるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも5類になり、面会対応も少しずつ変え、少しでも面会出来るようにしている。マスクや手指消毒を行い換気をよくして、玄関にて短時間にて対応出来るようにし、出来る限りの交流出来るように実施しています。・現在、コロナ禍により遠方の知人や友人と面会や外泊は制限しながら行ってます。職員は入居者様の馴染みの美容室へは同行支援や隣接するデイサービス事業所の利用者と交流。	以前は面会制限を設けていたが、現在はキーパーソンの方であれば、居室での面会も可能としている。また、県外在住の方との面会も可能である。居宅介護事業所のケアマネージャーと協力関係を築いており、入居者の様々な情報をフェイスシートで得ることもある。家族等の協力を得ながら冠婚葬祭などへの参加や馴染みの美容室、外泊等ができるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入所者同士は隣同士に座って頂いたり、配慮をし居室訪問にも繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後数年たっても、通夜や葬儀への参列も行ったりもしています(コロナ禍である為短時間の参列に届けています。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出の希望等職員との話し合い等で意向を汲み取るよう努めている。・職員は日々の介護実施の中で本人様の反応や表情から、思いや意思を読み取れるように努めている。意向の申し出が困難な入居者様には必要に応じて、ご家族様へ本人様の状況を説明しご家族から入居者様の情報を得て検討している。起床や就寝等本人の希望に沿って設定し本人が望む暮らしの実施に努めている。	認知症の症状が進行することで、入居者本人がこれまでにできていたことができなくなってきたことでその方に不安感や喪失感が生まれ、BPSDに影響を与えることも少なくないことを踏まえ、本人を否定せず寄り添う介護に努めている。意思疎通が困難な方には職員がジェスチャーを交えながら意思疎通を行うこともある。起床や就寝時間は本人の希望に柔軟に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの聞き取り等に努めている。また利用者様から聞いたりしています。その後ご家族に再度確認することもあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者様に合わせた日課を行うようにしています。1日3回のバイタルチェック実施、15時にも体温測定を行いより体調の状態の把握等に努めています。また、服薬の関係でバイタル測定1日5回測定する入居者様もいます。状況に合わせたバイタル測定を実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月一回の会議にて話し合いを持ち意見を取り入れている。・家族へは面会時要望や意見を確認するようにしています。・本人様からの要望聞き入れています。・月に1回の会議を通じて介護計画の実施状況を踏まえ、入居者支援に関する意見を行っている。・介護計画は3ヵ月1回もしくは、入居者様の状態に応じて見直す事を基本として取り組んでいる。・介護記録は、介護計画の実施状況が分かるように記載。実施状況をモニタリングや計画書の見直しに活用している。	ケアプランの達成目標につき、そのサービス内容に採番し、介護記録に実施状況を残し、支援実施内容を評価できるよう工夫し、モニタリングの簡素化に繋げている。職員は入居者ごとの担当制とし、計画作成担当者と担当職員が意見交換を行い、家族にも意向を確認してケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の様子をカルテに記載。大切な事は赤で記載するようにしています。気づきは申し送り帳に記載情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの急な外出の希望等に対し柔軟に希望に添えるよう支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室へ実施される場合は、予約や送迎実施。または、市街へ馴染み継続の場合はご家族の協力のもと継続されてます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前のかかりつけ医に通院出来るようにし医師とも連携を取っている。・入居前からのかかりつけ医に継続して受診出来るよう配慮しているが、市や町で受診支援の対応を行っていない場合はご家族様の協力でかかりつけ医の継続に行うようにしています。・受診後の結果は、お手紙で報告か、必要に応じて電話で報告行うようにしています。・入居後の追加病院受診は、ご家族様での対応で行って頂き、施設と病院との連携をご家族様に協力して頂いています。	協力医への受診の際は職員が同行して支援している。入居前のかかりつけ医を継続する場合や区域外の医療機関への受診には家族対応を依頼している。受診後は職員が医療カルテに記録を残し、面会時や手紙で家族へ受診時の報告を行っている。今後、ホームへの往診も検討されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は週3回の勤務体制で訪問時に連携をとり、受診状況報告している。何かある場合は24時間電話確認できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設職員が日々の状態報告を行うようにしています。ソーシャルワーカーとの連携を図り早期退院へ繋げています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期に向けた方針はあります。施設で対応出来るまでは施設で対応しています。 ・現在、終末期に至った場合は、ご家族様の希望で医療機関への入院での対応がほとんどである。 ・看取りケアは、施設だけで出来る事ではなく、ご家族様の協力が1番と考えている。ご家族様、医師、施設が双方に協力する事で対応出来ると考えている。	入居時にホームの重度化や終末期に向けた方針を入居者及び家族へ説明している。ホームの協力医療機関による往診は行われておらず、重度化した場合は医療機関への入院または事前に特別養護老人ホームに予約を取るようになっている。重度化した場合でもホームで可能な限り支援し、本人や家族の意思を尊重しながら、体調に合わせた食事を提供するよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・新人職員には、マニュアルを入社に見て対応出来るようにしてもらっています。 ・数年に1回は救命救急の講習会に参加するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	・火災訓練は年2回、夜間と日中想定で実施してる（今年度が、新型コロナウイルス感染により、消防署の立ち合いが出来ない為、当施設防災機器の管理業者の立ち合いで実施しています） ・年1回は、水害または台風・地震の避難訓練を実施しています。 ・現在、コロナ禍により、近隣住民が参加した避難訓練は実施は難しいが、運営推進委員会開催時に訓練状況の見学は、今後再開していきたい。 ・ハザードマップでは、当施設は土砂災害危険個所の地域圏に位置している。 ・非常食の試食を行い、ローリングストックによる食料品や日用品などの備蓄を準備している。 ・万が一避難に備えて全入居者の情報をファイリングした緊急時の持ち出し一覧表を作成している。更に避難場所で円滑な入居者確認に繋がるよう入居者様の写真も貼っている。	年に2回避難訓練を実施し、直近では本年9月に夜間の火災を想定した訓練を実施し職員4名が参加している。年1回は自然災害を想定した訓練を実施している。ホームに隣接した倉庫に非常食を備蓄されており、ローリングストック法により、蓄える・食べる・補充することを繰り返しながら備蓄を準備している。9月の運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を行い、運営推進会議のメンバーに訓練を見学してもらい意見を窺っている。職員も緊張感を持って訓練に臨むことができています。今後もそのような機会を設けたり、自治会長を通じて地元消防団への声かけを依頼するなど、地域や消防団との協力体制づくりに繋げる取り組みに期待する。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・排泄失敗があった場合は、入居者の不安な気持ちを汲み取りながら、その方の羞恥心に配慮したさりげない言葉かけを心がけている。また、失禁時等さりげない声掛けで他の入居者に分からないようなトイレ誘導や居室からの洗濯物・汚染物等は新聞紙で包んで捨てる等配慮している。・入居者様への声を掛ける際の呼びかけについては『○○さん』としており、その方の人格を尊重しいた言葉掛けに留意している。・当施設では、運営推進委員会の際の資料として配布する入居者様の様子を収めた写真については、入居時にあらかじめ同意を得ている。	入居者それぞれの居室にトイレがあり、失禁した場合などはさりげなく本人に声掛けし、居室で対応するようにしている。年間研修計画を作成し、内外の研修に職員が参加している。運営推進会議等で使用する資料に入居者情報を掲載する場合はイニシャル表示にしている。入居者への呼び名は○○さんとし、本人を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で本人の希望等さりげなく聞きだすようにしている。本人様の意思にそうように支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を取り入れベッドで休ませたりテレビ視聴されたり散歩に一緒に行ったりと支援している。入居者様に合わせた、起床・就寝・食事時間の変更を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が準備した服が本人が嫌がったりした場合は本人の気に入る服に変えたりしている。ご自分で用意できる方は自由に選んで着られています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人様の個々の能力に応じた食事形態で提供し、食べやすいようしている(お粥、刻み食など)・食事も職員も一緒に同じ物を食べている。・食事制限の指示があるが、本人様、ご家族様が主治医と話し合いを行い食事制限を行うかの有無を決定し、施設で出来る範囲の食事制限であれば対応しています。・毎月第二日曜日に1名のリクエストメニューを聞き提供しています。・誕生日会も実施しています。・配膳、下膳、茶碗洗い、台拭きなど入居者様がしたい物をお手伝いされています。・食事は入居者様と同じものを食べてる。・近隣の農家の方から季節の野菜を差し入れがあったり、以前入居者されていたご家族様からの頂きものがある時は、皆で美味しくいただいています。	誕生日、クリスマス、正月などホーム行事等を通じて入居者にとって楽しみとなるような食事を提供している。その際の様子を撮影し、家族へ送付している。事前に本人の嗜好を把握し、ソース味を醤油味に変更したり、減塩食であるが漬物を添えて欲しいとの要望に医師の助言や職員間で協議をした上で応え、職員による手作りの料理を提供している。食事形態は入居者の嚥下状態に合わせてキザミ食等個別に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日三度の食事量・水分量をチェックし、ひとりひとりの状態把握に努めている。おやつ時・起床時の水分をチェックを行っています。尿路感染になりやすい入居様には、こまめな水分補給に努めています。お茶以外にも、ポカリスエット・ごぼう茶・麦茶など提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後共同洗面所にて、うがい・歯磨きを行っている。ひとりで出来ない入居者に対しては職員が介助を行っている。常に入れ歯を装着出来ない方には、食前・食後の入れ歯の装着・ケア管理を行っています。・施設提供の歯磨き粉は、液体歯磨きで提供しています。または歯ブラシも施設提供物がありますが、施設提供の物が嫌な方は、ご家族様対応でしています。・入れ歯がなく、歯茎で食事される方は、施設歯ブラシでは歯茎を傷つけるので、マウススポンジを自費で使用して頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ひとりひとりの排泄時間の把握に努めトイレ誘導をし又、昼間は布パンツで過ごせるよう支援している。または、オムツやリハビリパンツ、尿取りパット、それぞれ使用が違うので使用状況の把握をして対応しています。	入居者個々の排泄状況は情報を集約した介護記録に残している。排泄を自立している方が多く、職員が本人に確認して記録を残している。便秘がある場合は3日目を目途に服薬を支援している。オムツ業者の選定においては安価でオムツを購入できるよう検討しており、家族の経済的負担に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェックし水分の補給や運動、又は医師・看護師と相談しながらの調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週三回～四回の入浴を支援しているが、毎日入浴の準備はしており個々に対応している。 ・入浴のその日嫌な方は、次の日に支援してます。	入浴は本人の希望に応じて週3～4回午前中の中の入浴を基本としている。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を行い、リラックスして季節感を味わえるよう取り組んでいる。入浴を拒否する方には翌日に入浴を支援している。必要に応じてシャワー浴、足浴を実施し、本人の清潔保持に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はベッドでの休息やソファでの居眠り等、個々に対応している。又、夜間は眠くなるまでテレビ視聴する等その時に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者ごとに、処方説明書閉じ管理。変更があった薬は、マーカーで印を付け確認しやすいようにしています。また、薬の副作用や用途でわからないよう時は、かかりつけの薬剤師に電話連絡を行い確認をとったりもしています。薬にの管理は、看護師を基準に介護職員と連携を行い管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・職員の知人に要らない雑誌などがあった場合は、使用後施設へ提供してもらっている。・施設馴染みの美容室から、要らなくなった雑誌など頂き施設で提供しています。・職員が愛用している小説なども施設貸出を行い読んで頂く事も出来る。・希望者には、パズルや計算、色塗り、間違え探しなども提供できます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であった為、外出が病院受診以外でほぼなくなっているが、施設に庭や施設の周りを、気候がいい日は、車イスの方も一緒に散歩へ出て気分転換を行ってたりもしています。また、行きつけの美容室や理容室に1ヶ月に1回または2カ月に1回程度行事で取り入れる事で気分転換を図りました。	近くのグラウンドに咲く桜の花見に行ったり、散髪の帰りに買い物に寄るなど可能な範囲で外出を支援している。希望があれば正月やお盆に合わせて家族の協力を得ながら外出・外泊ができるよう支援している。天候がよい日にはホーム周辺を散歩し、入居者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使う使わないは別として、ご自身でどうしても所持されたい方はご家族責任で対応は可能としますが、施設管理はしていません。立替金として、翌月請求書に病院代や薬代、日常用品の補充があった場合立替金として対応はしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って行っている(自由に電話使用可能である)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内での行事の際は席の配慮やその時に応じた配置にしたりして楽しめるように心掛けています。	毎日、共用空間を早出の職員が清掃し、テーブルや手すりなど手に触れる箇所には消毒による拭き掃除を実施している。トイレ、倉庫、和室、浴室も含めて定期的に換気を行っている。ホームの壁面には職員と入居者が一緒に作成した季節の飾りものを掲示し、室内であっても季節の移ろいを感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やロビーに椅子・ソファを配置し座ってテレビ視聴やおしゃべりができるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたタンス等持ち込んでもらっている	居室は昼食前に職員が清掃している。居室には火気類や危険物以外の持ち込みが可能で、テレビや携帯電話、家族写真や裁縫道具のほか宗教的なものも持ち込みができるよう配慮している。居室に置く家具類の配置は、入居者の状態やリスクを勘案し、入居者と一緒に決めるなど、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレに手すりをつけたり、歩行器・車いすの貸し出しにより本人の力に合わせた支援を行っている。		